



平成24年4月12日
独立行政法人国立科学博物館

国立科学博物館

総合研究棟・自然史標本棟 竣工記念・開所式の

開催及びプレス内覧会の開催について

独立行政法人国立科学博物館（台東区上野公園、館長：近藤 信司）では、研究環境の改善と研究機能の高度化を図るため、昨春、筑波地区に新たに総合研究棟及び自然史研究棟を建設し、これまで新宿分館および産業技術史資料情報センターにおける研究機能とコレクション等の移転を進めて参りました。このたび、当該移転作業を予定通り完了し、4月20日（金）に総合研究棟・自然史標本棟の竣工記念・開所式を挙行政いたします。

つきましては、総合研究棟・自然史標本棟の竣工記念・開所式に先立ち、4月20日（金）14時00分から、総合研究棟・自然史標本棟のプレス内覧会（別紙詳細）を開催いたしますので、取材、記事の掲載など広報に関してのご支援・ご協力を賜りたくお願い申し上げます。

本件についての問合せ

独立行政法人 国立科学博物館

事業推進部 広報・常設展示課 広報担当 担当：福井、佐々木

〒110-8718 東京都台東区上野公園 7-20

TEL:03-5814-9855、9858 FAX:03-5814-9898

E-mail:shuzai@kahaku.go.jp <http://www.kahaku.go.jp/>

国立科学博物館 総合研究棟及び自然史標本棟について

総合研究棟

国立科学博物館の研究部門が研究を行う施設として、平成23年春に完成致しました。棟内は、各研究部などの研究室のほか、実験室、会議室、書庫、標本作製室など、博物館における調査研究活動において必要な機能が備えられています。

また、環境に配慮した機能として、温度差を利用して自然換気を促進する「風の塔」、太陽熱利用パネルを併用して温水を供給する太陽熱給湯などを設置しています。機能性ととも周辺に景観にも配慮した設備バルコニーを備え、拡充性・メンテナンス性に配慮した造りとなっています。建物の構造は、建物の揺れを抑え、構造体の損傷が軽減される制震構造を採用しています。



【建築の概要】

階数：地上8階、地下1階、塔屋1

構造：鉄骨造（制震構造）、一部SRC

建築面積：1,020.24㎡

延床面積：10,311.40㎡

自然史標本棟

国立科学博物館の標本資料を収集・保管するための収蔵施設として、平成23年春に完成致しました。現在、自然史標本棟の標本室には、動物、植物、地学、古生物、人類に関する標本資料を保管しています。

棟内は、活用しやすいフレキシブルな平面構造となっており、標本資料に配慮した空調、ガス消火設備、大型液浸標本室、荷物用エレベータのほか、1階には標本室の一部を来館者が見学できるスペースも設けています。

また、建物の構造には、地震時にも大切な標本資料を守る免震システムを採用しています。



【建築の概要】

階数：地上8階、地下1階、塔屋1

構造：鉄筋コンクリート造 基礎免震構造

建築面積：1,450.88㎡

延床面積：10,827.94㎡

国立科学博物館 総合研究棟・自然史標本棟
プレス内覧会のお知らせ

国立科学博物館では、竣工記念・開所式の開催に先立ち、下記のとおりプレス内覧会を実施いたします。当日は、担当研究者による施設解説も行いますので、ぜひご参加いただき、記事として取り上げていただければ幸いです。

記

【会場】国立科学博物館 筑波研究施設（茨城県つくば市天久保4-1-1）

【開催日】平成24年4月20日（金）

【開催時間】14時00分～15時00分（受付時間13時30分～14時00分時まで）

【受付場所】筑波研究施設 総合研究棟1階エントランスホール

また、プレス内覧会終了後、竣工記念・開所式を行いますのでそちらも取材していただき記事として取り上げて頂ければ幸いです。

式典：15時～15時45分（総合研究棟8階大会議室）

内覧会：15時45分～17時（総合研究棟、自然史標本棟）

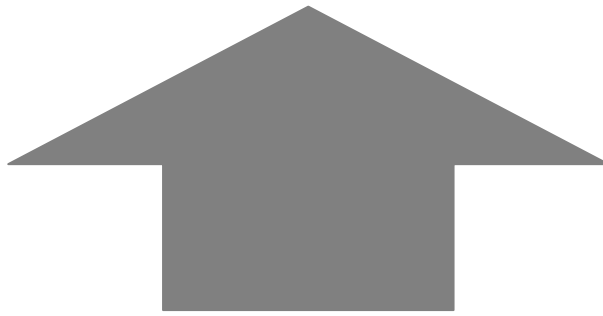
レセプション：17時～18時30分（総合研究棟8階大会議室）

<交通>

- ・電車の場合。つくばエクスプレスつくば駅前のつくばセンターバスターミナルから、関東鉄道バス 筑波大学循環左回りコース（6番乗り場）→「天久保2丁目」下車（片道約10分、160円）、徒歩8分。
- ・タクシーの場合。「つくばセンター」から「筑波実験植物園」までご利用の場合、約5分（約3km）。
- ・車の場合。常磐自動車道 桜土浦 I.C. から北へ約8km。国立科学博物館筑波研究施設西門よりお入り下さい。



取材を希望される場合は、4月19日（木）17時までにメール又は、FAXにてお申し込み下さい（申請書別紙）。



【 返 信 用 紙 】

F A X 番 号

< 0 3 - 5 8 1 4 - 9 8 9 8 >

国立科学博物館 総合研究棟・自然史標本棟

竣工記念・開所式プレス内覧会参加票

(平成24年4月20日(金) 14時00分～15時00分)

(受付: 13時30分～14時00分)

参加をご希望される方は、下記項目にご記入の上、事前にFAXにてご返信
いただければ幸いです。

お手数をおかけいたしますがよろしくお願い申し上げます。

貴社名 _____

貴メディア・所属部署名 _____

ご芳名 _____

連絡先

住所: 〒 _____

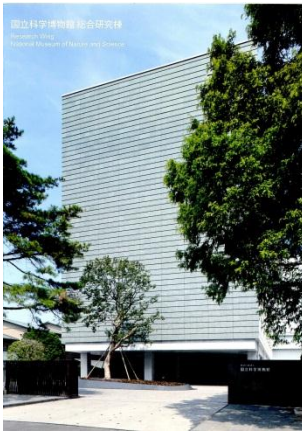
TEL: _____ FAX: _____

メールアドレス: _____

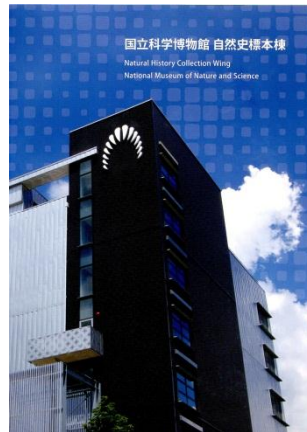
備考 _____

広報用写真提供

広報用として写真をご用意しております。



「総合研究棟」



「自然史標本棟」



「自然史標本棟
陸生哺乳類剥製標本
(ヨシモトコレクション)」



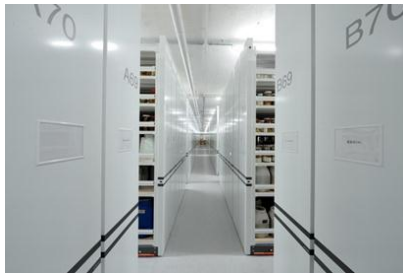
「自然史標本棟
液浸標本(魚類、海生無脊椎動物等)」



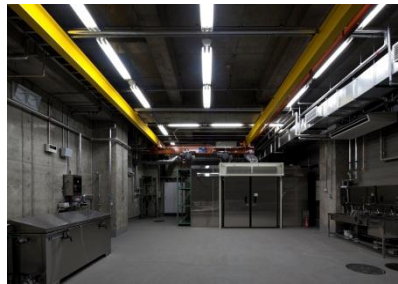
「自然史標本棟
大型液浸標本室」



「自然史標本棟
鳥類標本」



「自然史標本棟
標本室(2階)」



「総合研究棟
標本作製室」



「総合研究棟書庫」

【記事利用の際のお願い】

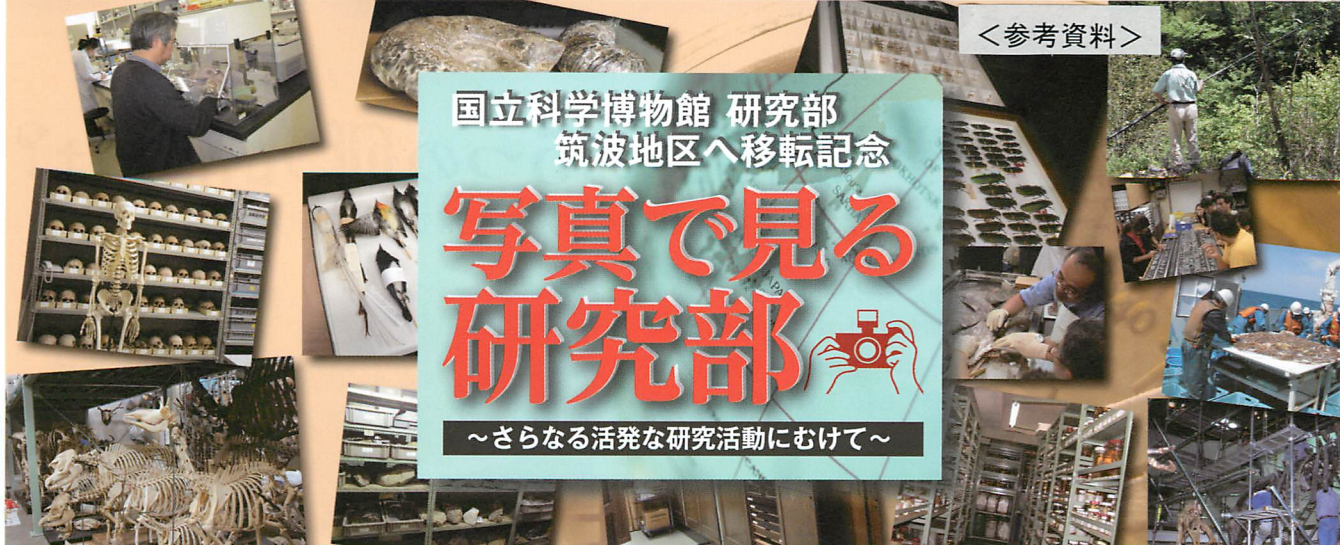
- * 写真掲載時には、クレジット「写真提供：国立科学博物館」を必ずご記載ください。
- * ご掲載いただいた場合は、掲載誌等をお送りくださいますようお願い申し上げます。



「総合研究棟、自然史標本棟 等
航空写真」

〈広報に関するお問い合わせ先〉 国立科学博物館 事業推進部 広報・常設展示課 福井、佐々木
電話 03-5814-9855、9858 FAX 03-5814-9898
E-mail: shuzai@kahaku.go.jp
〒110-8718 東京都台東区上野公園7-20

<参考資料>



国立科学博物館 研究部
筑波地区へ移転記念

写真で見る 研究部

～さらなる活発な研究活動にむけて～

国立科学博物館では、生物多様性の研究、地球・生命史の研究、科学技術史についての研究を行っています。当館に収集・登録された400万点を超える標本資料は、国民の共有財産であるナショナルコレクションとして体系的に保管され、次世代に継承されていきます。当館では、これらの豊富な標本資料に基づく実証的な研究を進め、自然史・科学技術史の様々な分野の研究員による分野横断的な研究を行っています。このような研究は科学博物館だからこそといえるでしょう。

筑波地区への引っ越し大作戦

国立科学博物館は、40年の歴史のある新宿分館を中心とした、東京エリアにある研究機能とコレクション等を筑波地区に移転します。移転によって、これまで分かれていた調査研究機能とコレクションが集約され、自然史・科学技術史研究を効果的に推進し、分野を超えた横断的研究を一層発展させることができます。



これまで研究の拠点だった 新宿分館



これから研究の拠点となる
筑波地区

移転トピックス



今回の引っ越しでは、総物量は4t車換算で1,000台、期間は2011年7月から2012年の3月までかかる大規模なもの。

岩石標本、魚類等のピン詰めされた液浸標本、動物の剥製、くじら等の骨格標本、昆虫の標本、天文関係の重要文化財、昔の機械等多種多様な標本資料が大移動。

新しい建物の中は!...たとえば



自然史標本棟
大量の貴重な標本のための
たくさんの引き出しが並ぶ。



総合研究棟 図書
図書資料も大容量の
新しい部屋に



国立科学博物館の5つの研究部とは？

国立科学博物館は、自然史および科学技術史研究の研究機関として、5つの研究部を設置しています。

動物研究部

顕微鏡サイズの微小種からクジラ類のような巨大種まで、あらゆる動物群を研究対象としています。標本に基づいた分類と系統の研究を柱に、生物地理、生態、比較形態、遺伝子解析などの研究も取り入れて、動物の進化と適応および種多様性の解明を目指しています。

植物研究部

維管束植物、コケ植物、藻類、地衣類、菌類について標本資料を収集し、分類学・進化学、および環境とのつながりに注目して、保全のための研究を行っています。これにより、あらゆる多様性科学の基盤となる総合的データベースの構築を目標としています。

地学研究部

地球の生い立ちを理解するための資料を研究素材としています。それには、46億年の歴史をもつ地球構成物質として、岩石・鉱物があり、生命の誕生からおよそ40億年にわたって生物の変遷史を記録してきた化石があります。これらの資料について調査研究をして、データベース化を行っています。

人類研究部

人類の進化・拡散・変異、そして日本人の形成過程を、形態およびDNAの分析から研究しています。たとえば、人類がいつアフリカから広がったのか、あるいは、日本人の祖先集団がどこからきて、どのように現代日本人になったのかなどの調査研究を行っています。

理工学研究部

日本の科学技術の発展過程を明らかにし、未来の発展に結びつけるため、その科学や技術に関する資料の収集および調査研究を行うとともに、必要な理工学の基礎的研究を行っています。所蔵資料には江戸時代から明治・大正期、現代に至る科学技術資料があります。

採集する。



調査船による底引き網で標本を採集します。



鳥類、昆虫など様々な動物の標本を収蔵。

保存する。



植物の野外調査中。フィールドで花の特徴もじっくり観察中。

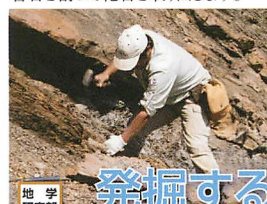


遺跡の人骨からのDNAを分析中です。

分析する。

観察する。

ハンマーで露頭をたたいて岩石を割って化石を取り出します。



科学掘削船で海底を掘った試料を見ながら海外の研究者と議論中。



重要文化財「紙張子製天球儀」を手袋をして取り出します。

調査する。



オープンラボでの標本解説。



オープンラボでの標本解説。

伝える。



筑波地区 全景

筑波に移転した研究部 これから

これからも研究を活発に進め、標本資料を体系的に収集し、コレクションのデータベース化等のナショナルセンター機能を充実します。

研究活動とともに学習支援活動もより一層推進し、他の博物館や研究機関、企業、地域等と積極的に連携していきます。

筑波実験植物園・・・一般公開の施設です。

- ◆ 開館時間：9:00～16:30(入園は16:00まで)
- ◆ お問い合わせ：TEL 029-851-5159
- ◆ 入園料：一般・大学生 300円(20名様以上の団体 200円) 高校生以下・65歳以上無料
- ◆ 休園日：毎週月曜日(祝日・休日の場合は開園)
祝日・休日の翌日(土曜日・日曜日は開園)、年末年始(12月28日～1月4日)
- ◆ アクセス
 - つくばエクスプレス「つくば」駅下車つくばセンターバスターミナルから路線バス
 - ① 「つくばテクノパーク大穂」(5番乗り場)で「筑波実験植物園前」下車徒歩2分
 - ② 「筑波大学循環(左回り)」(6番乗り場)で「天久保二丁目」下車徒歩8分
 - 常磐自動車道 桜土浦IC. から大角豆交差点右折 筑波山方面へ約8km

問い合わせ

国立科学博物館 筑波地区(研究推進課)
〒305-0005 茨城県つくば市天久保4-1-1 TEL 029-853-8901

● 国立科学博物館©2011 本誌に掲載された記事、写真、図版等を許可なく複製することを禁じます。



国立科学博物館

National Museum of Nature and Science